

自らの学習を調整しながら学ぶ力を養う 社会科地理分野の課題を探究する授業

—振り返り場面における学習履歴の活用を通して—

金子 達也¹

自己の学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤する、いわゆる学習を調整する力が求められている。本研究では、自らの学習を調整する力を養うために、振り返り場面において学習履歴を活用した授業実践を行い、「自らの学習を調整しながら学ぶ力」を「学習状況を把握すること」と「進め方を試行錯誤すること」から検証し、一定程度の成果を得ることができた。

はじめに

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」には、「子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行なながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしているかどうか」(中央教育審議会 2016)と記されており、学習に関する自己調整が求められている。

また『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』では、主体的・対話的で深い学びの実現について、「主体的な学びについては、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しをもつことが必要である。そのためには、単元等を通した学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。」(文部科学省 2018)と示され、学習内容・活動に応じた振り返りの場面の設定が求められている。

所属校では、教師が生徒の状況を把握し評価することを目的に学習に対する振り返りやまとめの記述を実施している教科は多く、筆者もこれまで単元末に実施し、評価資料としていた。一方、振り返りやまとめが生徒の「学習に関する自己調整」へつながっているという視点への意識は薄かった。そのため、所属校では令和5年度より、主体的に学習に取り組む態度の評価に対する取組を進めている。この取組では、ワークシート等を活用したまとめや振り返り活動等から「粘り強い取組」と「自らの学習の調整」の見取りについて研究を行っている。

これらの所属校の現状も踏まえ、振り返りを活用した学習に関する自己調整する力を養うことが必要だと

考え、学習過程がわかる学習履歴に焦点を当てた。

なお、学習履歴については「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して~全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現~(答申)」において、ICTの活用による学習履歴等を蓄積・分析・利活用することの重要性に触れられており、「子供がICTを日常的に活用することにより、自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行いやすくなったりする等の効果が生まれることが期待される」(中央教育審議会 2021)と記されており、本研究では、自らの学習を調整しながら学ぶ力を養うために学習履歴をデジタル化し活用した授業を行うこととした。

研究の目的

社会科地理分野における課題を探究する活動の中で、学習履歴を活用することが自らの学習を調整しながら学ぶ力を養うことに有効かどうか明らかにすることを目的とした。

なお、「自らの学習を調整しながら学ぶ力」については「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 中学校 社会」において、「自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうか」(国立教育政策研究所 2020)と説明されており、本研究では「自らの学習を調整しながら学ぶ力」を「学習状況を把握すること」と「学習の進め方を試行錯誤すること」から検証する。

研究の内容

1 理論的研究

(1) 「自らの学習を調整しながら学ぶ」とは
田中は、「自ら学習を調整しようとする」という

表現は自己調整学習(Self-Regulated Learning)という理論を援用していると捉えることができる(田中2021)、この理論はZimmerman(1986)をはじめ、多くの研究者によって動機づけ、行動、メタ認知において、自分自身の学習過程に能動的に関与している学習と定義されている。

2 研究仮説

以上を踏まえて、次のような仮説を立てた。

社会科地理分野における課題を探究する活動の中で学習履歴を活用することが、自らの学習を調整しながら学ぶ力を養うことに有効であろう。

3 研究の手立て

(1) 学習履歴の活用

本研究で活用した学習履歴は、これまで振り返り場面で多く活用されてきているポートフォリオがもつ機能の一部に焦点を当てたものである。そのため、様式や記入項目を作成するに当たって自己調整学習やポートフォリオに関する先行研究(田中 2021、堀 2018)を参考に、各時の取組を自己評価し学習内容を記録する様式(以下、【記録】という)と【記録】の利活用を振り返る自己評価チェックシート(以下、【チェックシート】という)を作成した。(表1・2)

表1 【記録】の記入項目

① 授業内容・回数
② 自己の学習目標を記入してください。
③ 自己の設定した学習目標に対して振り返りを記入してください。(単元末にのみ記入)
④ 授業への取組を自己評価しましょう。(ABC評価)
(1)必要な情報を調べ、理解しようとした。
(2)クラスメイトに自分の考えを伝えたり、相手にアドバイスをしたりした。
(3)課題に対して主体的に追究しようとした。
⑤ (記録)本時でできしたことや分かったことを記録しましょう。
⑥ (見通しと計画)本時の学習を踏まえて、次回の授業までにやっておくことや次回の授業内でやることを記録しておきましょう。
⑦ 質問があれば、記入してください。
※毎時間、まとめの時間(10分間)で記入

表2 【チェックシート】の記入項目

① 授業回数
② ここまでに行った自己評価(3観点のA~C)は自分の取組を適切にとらえていますか。6段階で答えてください。
③ 「できしたこと」や「分かったこと」の記録は本時までの自己の学習内容の把握に役立ちましたか。

たか。6段階で答えてください。

- ④ これまでに設定した「やっておくこと」や「授業内でやること」等が実施できましたか。6段階で答えてください。
- ⑤ 「やっておくこと」や「次回の授業内でやること」を記録しておくことは、あなたの学習の進め方に良い影響を与えましたか。6段階で答えてください。
- ⑥ 今後、【記録】の書き方や活用の仕方で改善しようと思うことがあれば教えてください。

※2~3時間に1度、まとめの時間(約15分間【記録】の記入も含めた時間)で記入

本研究では、アンケート・小テストソフトと表計算ソフトを活用し、記入内容が瞬時にグラフ化・可視化され、自分の成長を実感できるといった利点を検証にいたしました。

4 検証授業

(1) 検証授業の概要

【期間】令和5年9月19日(火)~10月6日(金)

【対象】鎌倉市立腰越中学校

第2学年3クラス(90名)

【教科書】社会科 中学生の地理(帝国書院)

【単元名】日本の地域的特色(10時間)

【授業者】金子 達也(筆者)

【単元のねらい】

「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「交通・通信」の項目を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、各項目の特色を理解し、抱える課題を多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。

【単元計画】

表3 学習の流れ

時	学習活動
1	個人調査を始めよう
2	分科会で調査内容を深めよう
3	本会議で調査内容を報告しよう
4	分科会と本会議で計画案をブラッシュアップ!
5	計画案を作成しよう①
6	中間報告会で計画案をブラッシュアップ!
7	計画案を作成しよう②
8	計画案の説明動画を完成させよう
9	説明動画を提出しよう
10	まとめ、振り返りと新たな課題の把握

【単元の学習課題】

あなたは、国が進める「日本未来都市計画-Society 5.0へ-」のメンバーに選ばれました。この組織は①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信の側面から日本が抱える課題や現状を明

確に整理し、未来型の強みへ転換する組織です。

問い合わせ、「よりよい社会の実現を視野に日本の現状や課題をどのような技術革新を活用してどのような強みに転換するべきか」について考え、計画案を提案してください。

【単元の学習活動】

- ・学習課題に対する計画案を説明した動画をグループで作成する。
- ・各グループが作成した説明動画を視聴し、個人の計画案を記述で作成する。

5 検証結果と考察

(1) 「自らの学習を調整しながら学ぶ力」が養われたかについての検証

検証授業前後に実施した事前、事後アンケートにおける意識の変容、【記録】(表1)と【チェックシート】(表2)における数値の変化、記述および単元末振り返りアンケートの記述から「学習状況を把握すること」と「学習の進め方を試行錯誤すること」に分け検証した。

なお、生徒の記述については、筆者が研究報告に引用する際、趣旨に影響がない範囲で言葉や表現を整える等の加筆をした。

ア 学習状況を把握できたか

(ア) 事前事後アンケートの変容

事前事後アンケートでは、「自己の学習状況や理解度を把握しようとしている」という項目(図1)で、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」(以下、肯定的な回答という)が事前アンケートでは83.6%に対して、事後アンケートでは、93.7%と10.1ポイント増加し、学習状況の把握をしようとする意識が検証授業を通して向上した。

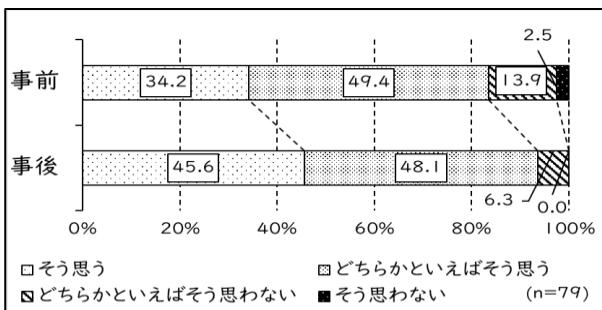


図1 「自己の学習状況や理解度を把握しようとしている」のアンケートの回答の比較

特に、事後アンケートの回答で意識に変化が見られた生徒が、37人いた。そのうち、意識が上昇した生徒は26人である。また「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」(以下、否定的な回答という)から肯定的な回答に変化した生徒は11人いた。

このことから、検証授業を通して学習状況を把握しようとする意識が向上したことが分かった。

(イ) 【チェックシート】の分析

毎時間記入した【記録】に対して【チェックシート】を使い、単元内で4回(第2時・第4時・第7時・第10時)、活用状況等について振り返りを実施した。次にすべて実施できた生徒41名を対象に表2項目②「ここまで行った自己評価は自分の取組を適切にとらえていますか」(6件法)における、生徒の回答割合(図2)を示す。

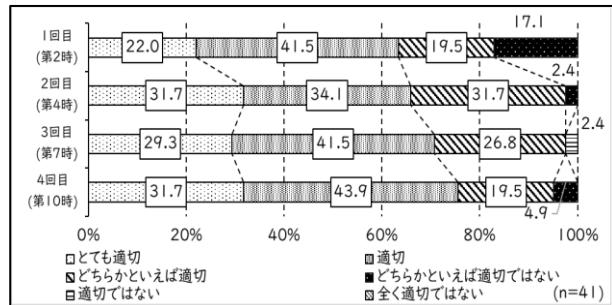


図2 表2項目②「ここまで行った自己評価は自分の取組を適切にとらえていますか」の回答割合

自己評価の振り返りについては回数を重ねるごとに「どちらかといえば適切」と回答した割合が減少し、「とても適切」または「適切」と回答した生徒が増加していることが分かった。これは自己評価に対する振り返りを繰り返し行なったことで自己の学習状況を把握し、取組と自己評価の関連性に自信をもった生徒が増加したと考えられる。

(ウ) 単元末振り返りアンケートの記述

次に、表1項目④(3)「課題に対して主体的に追究しようとした」(3件法)における生徒の各時の回答割合(図3)を示す。

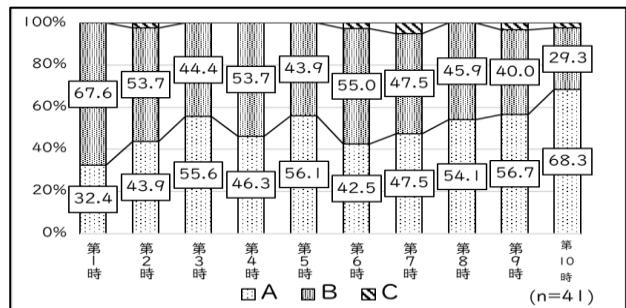


図3 表1項目④(3)

「課題に対して主体的に追究しようとした」の推移

回答はABC(十分満足できる(A)、おおむね満足できる(B)、努力を要する(C))からなる3件法で、第1時にB評価をした生徒が全体の67.6%に対して、第10時では29.3%と減少し、第1時にA評価をした生徒が32.4%に対して第10時では68.3%と増加した。これは単元が進むにつれ、生徒の主体的に取り組む意識が向上したからではないかと考えられる。また、【チェックシート】で自己評価を振り返った後の授業(第3時・第5時・第8時)すべてで主体性に関する自己評価の推移が上昇していることが分かった。これは自己評価を振り返る取組で自己の学習状況の把握が促され、主体性に良い影響を及ぼしたのではないかと考えられる。

以下に、主体性に影響があったと捉えられる単元末振り返りアンケートの記述を示す。(表4)

表4 単元末振り返りアンケートの記述

自己評価に対する視点にどのような変化があったのか教えてください	
生徒A	主体性が足りてなかったから、そこを少し重点的にやろうなどバランスよくできた。
生徒B	自己評価を見ることで自分の取組の仕方を見直せてもっとちゃんと取り組もうと思うようになった。

以上のことから、自己の学習状況を把握しようとした生徒が多く、把握が進んだ生徒の取組にも良い影響が表れた。

特に、【記録】の活用状況を振り返ることで、自己評価への意識に影響があることが分かった。意欲的に学習に取り組む生徒やより適切な自己評価になるように学習に取り組む生徒の姿が見られた。その他、「自分がやっていることを客観的に見ることができる様になった」や「なぜ評価がこれなのかを説明できるようになった」、「ある時少し自分に甘いのではないかと思い、それからよく確認するようになった」などメタ認知が進んだことが読み取れる記述があった。

イ 学習の進め方について試行錯誤できたか

本研究では「学習の進め方を試行錯誤すること」を田中が示す自己調整学習の特徴を参考に「学習状況に応じて進め方を考えたり、見直したりすること」と定義した。

(ア) 事前事後アンケートの変容

事前事後アンケートでは、「学習内容を確認したり振り返ったりすることで、学習をどのように進めるべきか考えることがあったか」という項目(図4)で、肯定的な回答が事前アンケートでは82.3%であったのに対して、事後アンケートでは、94.9%と12.6ポイント増加し、学習状況の把握によって、学習の進め方を試行錯誤しようとする意識が検証授業を通して向上した。

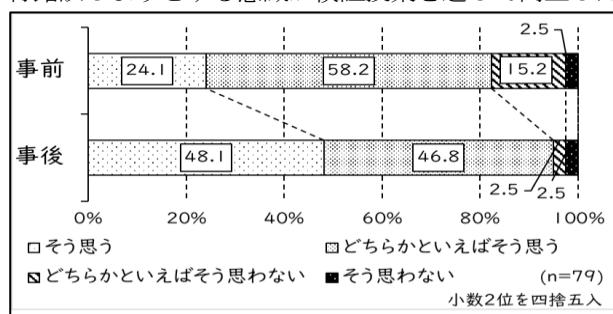


図4 進め方を考えることがあったか

特に、事後アンケートの回答で意識に変化が見られた生徒が、46人いた。そのうち、意識が上昇した生徒は36人である。また否定的な回答から肯定的な回答に変化した生徒は13人いた。

このことから学習の進め方を試行錯誤しようとする意識が向上したことが分かった。

(イ) 【記録】の分析

検証授業では、第1時から第4時が課題把握と課題追究の活動とし、第5時から第10時が課題追究と課題解決の活動となっている。以下に、課題追究までの活動において、特に学習状況を把握することで学習の進め方の試行錯誤が進んだ様子がみられた生徒の【記録】(表1項目⑤⑥)(表5)を示す。

表5 生徒Cの【記録】(表1項目⑤⑥)の記述(抜粋)

生徒C	分科会
	人口
自己の学習目標を記入してください	
	少子高齢化が進んでいる一番の原因を理解したいです。なぜ、東京の人口密度が高いかを詳しく調べたい。
第2時	(記録) 分科会で得た情報 ・高齢化率が39%になる ・人口現1億2000万人→9000万人 ・良いことは住居面積が多くなることや教育費を払わなくて良くなるところまでいき、生活水準が上昇していく。 ・課題は労働時間が増えていき、少子高齢化が進んでしまってことです。
	(見通しと計画) 分科会では情報交換がいっぱいできただけで、技術革新のことについて、できなかつたから次回までにやっておきたい。
第3時	欠席
第4時	(記録) 他の現状や課題を共有できた ・自然環境 海洋汚染、科学物資 ・通信 ネットワークの問題点 技術革新 ICカード、光通信、自動運転 分科会 少子高齢化問題点:長時間労働、経済成長にブレーキがかかること (見通しと計画) 分科会で共有した、問題点などを調べていきたい。人口の最終的な問題点について詳しく調べたい。
第10時	自分が設定した学習目標に対して振り返りを記入してください 人口について、調べていたら、一番の原因是少子高齢化が進んでいることでした。少子高齢化についてはなんとなくは知っていたんですけど、少子高齢化が進んで

いる理由について、詳しく調べられたし、スライドにもわかりやすくまとめられました。もう一つ課題で、なんで東京の密度が高いのかまでは調べられなかったので、時間がある時に調べたいです。

第2時の(見通しと計画)欄で設定した学習内容が第4時に実施されていることが見て取れる。これは、【記録】が活用され、学習状況に応じて進め方を考え、実施された一例である。また、第10時に行つた目標に対する振り返りにおいて、自己の学習状況を踏まえ、目標に対する振り返りを行つていることが見て取れる。

【記録】で計画したことを単元内で実施したと見取られた生徒は84人中79人であった。多くの生徒が、次回の授業や学習活動に向けた計画を立て、実施したことかが分かった。

また、表2項目④「これまでに設定した『やっておくこと』や『授業内でやること』等が実施できましたか」(6件法)において、「十分実施できている」、「実施できている」、「どちらかといえば実施できている」と回答した生徒は、単元を通して増加傾向にあり、第10時では70人中65人であった。

以上のことから、学習の進め方を試行錯誤しようとする意識が向上し、単元内の活動においても自己の学習の進め方を考えたり、見直したりする姿が多くみられた。

(2) 学習履歴の有効性についての検証

第10時に実施した単元末振り返りアンケートの記述から学習履歴を活用することが「自らの学習を調整しながら学ぶ力」を養う上で有効か「学習状況を把握すること」と「学習の進め方を試行錯誤すること」に分け検証した。

ア 学習状況の把握することへの有効性

単元末振り返りアンケートでは、「学習履歴は、あなたの学習状況を把握するのに有効か」(6件法)において、「とても有効だった」、「有効だった」、「どちらかといえば有効だった」(以下、肯定的な回答という)が96.2%であった。次の同項目の理由記述において肯定的な回答をした生徒(表6)を示す。

表6 単元末振り返りアンケートの記述

学習履歴は、あなたの学習状況を把握するのに有効でしたか(理由の記述)	
生徒D	自分が何を理解できたのか、なにができるなかったのかを理解して次の授業につなげることができたから有効であった。
生徒E	自分が、何ができないのか、もうできたことは何か、すぐに把握できるのは楽だったから有効であった。

また、他の生徒の記述内容においても、「分かったことが見える化されて、どこまで理解できているのか

が把握できるようになった」といった学習状況を把握しようとした記述が複数見られた。

以上のことから、学習履歴の活用は自己の学習状況を把握しようとする意識に有効であったと考えられる。

また、生徒Fは学習履歴の有効性についてグラフ化による可視化を挙げている(表7)。

表7 単元末振り返りアンケートの記述

生徒F	自分が少しずつ成長してきたことがわかり、表やグラフなどで今の自分の弱点などを理解することができたから有効であった。
-----	---

これは他の生徒の記述内容にも「グラフで表示されて、自分の状況がどうなのかをひと目で分かる点から有効だと思いました」や「できているところは発表や調べるときに活かせるので可視化できて、とてもよかったです」といった可視化に関する記述が複数見られた。

以下に、導入したグラフ(図5)を例示する。このグラフは表1項目④(1)(2)(3)の各回答を3点満点(「A(3点)」、「B(2点)」、「C(1点)」)とし、グラフ化したものである。

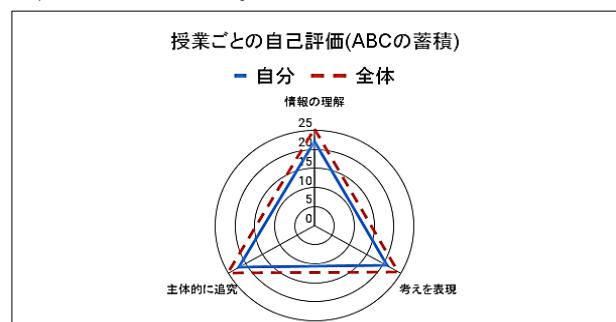


図5 自己評価の蓄積グラフ(見本)

このことから、学習状況の把握を促す手立てにグラフ化による可視化が有効であったと考える。

イ 学習の進め方を試行錯誤することへの有効性

単元末振り返りアンケートでは、「学習履歴は、あなたが本時の学習をどのように進めるべきか考えるときに有効か」という項目において、肯定的な回答が92.4%であった。次の同項目の理由記述において肯定的な回答をした生徒の記述(表8)を示す。

表8 単元末振り返りアンケートの記述

学習履歴は、あなたが本時の学習をどのように進めるべきか考えるときに有効でしたか(理由の記述)	
生徒G	次の授業の進め方ややることが一目で分かつて作業をすぐに進めることができたから有効であった。
生徒H	まだ全然進んでないから、今日は早めに進めようなど、学習計画の基準にから有効であった。
生徒I	前回どこまで進んでいて、今回はどこまでやる必要があるかを見られたらし、やるべきところを確認できたから効率よく進めることができたから有効であった。

また、他の生徒の記述内容では、「見返して今日はどこまでやってどこまで終わらせるかを前回の進みから考えることができたから」や「自分が前回どこまで活動できたかなどを見て計画をたて必要であれば計画変更をすることも迅速にできるから」といった学習の進め方を見直すことを意識できている姿が見られた。

のことから学習履歴の活用は自らの学習を調整しながら学ぶ力を養う上で有効であったと考えられる。

研究のまとめ

1 研究の成果

本研究から、学習履歴を活用した探究活動は自らの学習を調整しながら学ぶ力を養うことに有効であると考える。

特に、学習履歴が前時までの学習内容と本時で行う学習内容をつなぐ役割を担ったことが一つの成果だと言える。また、自己評価を記録することや、利活用に関する振り返りを行うことで学習内容の把握に留まらず、自己の学習状況の把握が促され、メタ認知を進めることができた。

2 課題

本研究では、学習履歴の活用から自らの学習を調整しながら学ぶ力を養うことを目指したが、生徒への活用支援に課題があったと考える。

特に、学習履歴に対して自己の状況に応じた活用方法や記入する内容を理解できていない生徒も多いように感じた。また本研究では、記入時間の確保によって活動時間が十分に確保できない時があった。これらのことから、項目の簡略化や記入回数の見直しが必要であると考える。

3 展望

課題である活用支援について、今後も工夫をしていきたい。書くことが苦手な生徒が一定数いることに配慮しながら、記入内容が明確になる支援や記入内容を他者と積極的に共有する取組を実践していきたい。学習の振り返りやまとめを書かせることが目的になってしまわないように留意しなければならない。

また、自らの学習を調整しながら学ぶ力は生徒の主体性に密接に関わっているため、記入回数を生徒にゆだねる取組を実践していきたい。活用を促進させるため一定回数の記入を促しつつ、生徒自身が必要に応じて記入することが自らの学習を調整しながら学ぶ生徒の姿であると考える。

おわりに

本研究を通して、筆者が所属校で行っていた学習の振り返りやまとめを記入させる取組の意味や価値を見

直すことができた。今後は生徒の「自らの学習を調整しながら学ぶ力」を養うことを目的とし、その手段の一つとして振り返り場面における学習履歴の活用をより工夫して活用していきたい。

また、それら取組をデジタルデータで行っている意義は大きい。デジタルデータの強みの一つである共有によって回収・フィードバック・返却といった一定の時間を要する場面がなく、常に自己の学習状況を把握できる環境にあった。これにより返却されるまで生徒の手元に成果物がない状態が避けられ、筆者もリアルタイムで生徒の学習状況を把握しやすく、生徒への授業内の声掛けもこれまでと比べ、より具体的に行えた。

最後に、本研究を進めるにあたり、鎌倉市立腰越中学校の校長を始め、教職員、生徒の皆様、そして御協力いただいた全ての皆様に深く感謝申し上げる。

[指導担当者]

新山 健² 諸見里 忠² 野口 義嗣³

引用文献

国立教育政策研究所 2020 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校編社会)』 p. 10

中央教育審議会 2016 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」 p. 62
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf (2023年11月10日取得)

中央教育審議会 2021 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」 p. 18
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf (2023年11月10日取得)

文部科学省 2018 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説社会編』 pp. 14-15

参考文献

田中博之 2021 『「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価の在り方』(教育開発研究所)

堀哲夫 2018 『授業改善の方法-OPPAの活用を中心にして-』(科学技術教育 通巻229号)

1. 日時 令和5年9月19日(火)から10月6日(金)

2. 場所 鎌倉市立腰越中学校

3. 生徒 第2学年3クラス各30名(計90名)

4. 研究の目的

社会科地理分野における課題を探究する活動の中で、学習履歴を活用することが自らの学習を調整しながら学ぶ力の育成に有効か検証する。

5. 研究テーマ

「自らの学習を調整しながら学ぶ力を養う社会科地理分野の課題を探究する授業-振り返り場面における学習履歴の活用を通して-」

6. 単元名、内容のまとめ

・日本の地域的特色 C 日本の様々な地域(2)日本の地域的特色と地域区分

7. 単元の目標

- ・自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解する。
- ・自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

8. 単元の指導と評価の計画

(ア) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解している。・少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解している。・日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解している。・国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、	<ul style="list-style-type: none">・自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。・日本の地域的特色を、自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	<ul style="list-style-type: none">・日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

<p>海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解している。 ・日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けている。 		
---	--	--

(イ) 指導と評価計画(○ … 「評定に用いる評価」、● … 「学習改善につなげる評価」)

時	学習内容	学習活動	評価の観点			評価規準			
			知	思	態				
パフォーマンス課題									
<p>あなたは、国が組織する「日本未来都市計画-Society 5.0 へ-」のメンバーに選ばされました。このチームは①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信の側面から日本が抱える課題や現状を明確に整理し、未来型の強みへ転換していくこうという組織です。「よりよい社会の実現」を視野に日本の現状や抱える課題をどのような技術革新を活用してどのような強みに転換するべきか。」について考え、計画案を提案してください</p>									
1	“個人調査を始めよう”	<ul style="list-style-type: none"> ● パフォーマンス課題を確認し、単元の学習活動①②を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 学習活動① 「課題に対する計画案説明動画をグループで作成する」 学習活動② 「各グループの説明動画を視聴し、個人の計画を作成する」 </div> ● 学習項目(自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信)を選択し、個人調査をする。 ● 個人で課題に対する計画案を考え、単元ワークシートに記入する。 ● 学習した内容を基に記録を記入する。 			●	(態)日本の地域的特色の学習について、パフォーマンス課題の計画案の検討や学習項目の選択を通して、主体的に追究しようとしている。			
2	“分科会で調査内容を深めよう”	<ul style="list-style-type: none"> ● 選択した学習項目を中心に、計画案について調べる。 ● 同じ学習項目を選択した生徒同士を4名ごとにグループに分け、個人調査で調べた内容を情報共有する。(以下、分科会) ● 個人で課題に対する計画案を考え、単元ワークシートに記入する。 ● 学習した内容を基に記録に記入する。 	● 知		●	(知) 分科会で得た情報を参考に計画案立案に必要な情報を理解している。 (態)記入した記録を基に自己の学習状況を把握し、学習計画を調整している。			
3	“本会議で調査内容を報告	● 4つの学習項目がすべてそろいようにグループを分け、計画案を作成す		●		(思)これまでの活動で得た情報を単元ワークシートの記			

	しよう”	る。(以下、本会議) ●学習した内容を基に記録に記入する。				録を参考に本会議でメンバーに表現している。
4	“分科会と本会議で計画案をブラッシュアップ!”	●分科会で、本会議の計画案を踏まえて情報共有をする。 ●本会議で、分科会の情報共有を踏まえて、計画案について検討する。 ●学習した内容を基に記録に記入する。	● 技	●	○	(知)これまでの活動から、選択した項目や設定した計画案に必要な情報を読み取っている。 (思)分科会での情報共有で、前時の本会議で得た知識を活用して自分なりの考察を、表現している。 (態)これまでの活動から記入した学習履歴を基に、自己の活動を振り返り、今後の学習の進め方を試行錯誤し、課題を主体的に追究しようとしている。
5	“計画案を作成しよう①”	●計画案を基にスライドを作成、協働編集する。 ●本会議で出された計画案を『集計表』に入力する。 ●学習した内容を基に記録に記入する。	○ 知	●		(知)自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の項目に基づく地域区分を踏まえ、日本の現状や課題、技術革新の活用について、我が国の国土の特色を大観し理解している。 (思)これまでの活動で得た情報を単元ワークシートの記録を参考に本会議でメンバーに表現している。
6	“中間報告会で計画案をブラッシュアップ!”	●各本会議(A~H)の計画案の『集計表』(Google スプレッドシート)を全体に提示し、③の学習活動に生かす。 ●本会議で中間報告会の役割分担を決める。 ●中間報告会を行う。 ●学習した内容を基に記録に記入する。		○		(思)中間報告会の計画案提示では本会議での話し合いを踏まえて、日本の現状や課題、技術革新の活用について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。
7	“計画案を作成しよう②”	●計画案を基にスライドを作成、協働編集する。 ●学習した内容を基に記録に記入する。	○ 知	●		(知)自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信の項目に基づく地域区分を踏まえ、日本の現状や課題、技術革新の活用について、我が国の国土の特色を大観し理解している。 (思)これまでの活動で得た情報を単元ワークシートの記録を参考に本会議でメンバーに表現している。

8	“計画案の説明動画を完成させよう”	<ul style="list-style-type: none"> ● 中間報告会を踏まえて、計画案を再度、検討する。 ● 本会議を通して、説明動画を作成、編集する。 ● 学習した内容を基に記録に記入する。 	● 技		●	<p>(知)これまでの活動から学習目標に迫り、日本の地域的特色に関する様々な情報を効果的にまとめている。</p> <p>(態)記入した記録を基に自己の学習状況を把握し、学習計画を調整しようとしている。</p>
9	“説明動画を提出しよう”	<ul style="list-style-type: none"> ● 本会議を通して、説明動画を作成、編集する。 ● 学習した内容を基に記録に記入する。 	○ 技			<p>(知)これまでの活動から学習目標に迫り、日本の地域的特色に関する現状や課題、技術革新の活用について、情報をまとめている。</p>
10	まとめ、振り返りと新たな課題の把握	<p>※本時までの間に各本会議が作成した説明動画をクラウドに掲載し、視聴させておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各本会議の説明動画を視聴したうえで意見交換を行う。 ● 単元ワークシートに本単元の学習活動を踏まえた、個人の解決案を記載する。 ● 記録を踏まえ、自己の学習状況を振り返る。 ● 全体で共有する。 			○	<p>(態)単元を通して行った学びを振り返り、自己の学習状況を把握するとともに、次の学習において、学習の進め方を試行錯誤した経験を生かそうとしている。</p>